

岐阜の果物界に新顔

柿「天下富舞」強い甘み

ふぶ

県が開発、ブランド化

県農業技術センターは柿の新品種を開発した。甘みが強いのが特徴。JA全農岐阜が19日、お披露目し「天下富舞」と名付けて県産ブランドとして売り出すと発表した。

(生駒美江)

同センター主任専門研究員の新川猛さん(50)が、2005年に高糖度の「新秋」と食味の良い「太秋」を交配。本県市と揖斐郡大

野町の柿農家に試験栽培を依頼し、約10年かけて品種を確立した。JAによると、富有の糖度が平均18度であるのに対し、天下富舞は20度を超える。県は農林水産省に品種登録を出願中で、認可されれば県としては柿で初めての登録となる。

名前は戦国武将織田信長が掲げた「天下布武」と富有柿にちなんで付けた。JA全農岐阜の応募に対し、467件から羽島郡笠松町の30代男性の案が選ばれた。

お披露目は岐阜市宇佐南の県JA会館であり、JA全農岐阜連営委員会の足立能夫会長は「過去に類を見ない糖度と食味の柿を全国に広めたい」と意欲を示した。岐阜女子大学の学生6人が書道パフォーマンスで長さ約16メートルの布に名を記したため見せた。

21日に名古屋市中央卸売市場で競りにかけられ、今季の出荷は約2千個を予定。名古屋市の百貨店を中心に販売する。JA全農岐阜園芸販売課の伊藤善紀課長は「来年春から苗木の供給を始め、本格出荷は4年ほど先になる」と説明した。



県産の新ブランド柿「天下富舞」をPRする新川猛さん(左)と伊藤善紀課長。岐阜市宇佐南、県JA会館